

● メールを便利に使おう その2 ●

今回は、前回に引き続き、Outlook Express のちょっと便利な機能をご紹介します。

(環境 : Windows XP XP2 / Outlook Express 6)

●メールを自動的に転送する

「営業なので外出がちなのだが、会社宛に届いたメールを携帯に転送して、出先でも確認したい」といった場合に手軽に設定できるのが「メッセージルール」です。

[設定方法]

[ツール→メッセージルール→メール]にて「メッセージルール」を表示させ、「新規作成」ボタンをクリック。

(図 1)

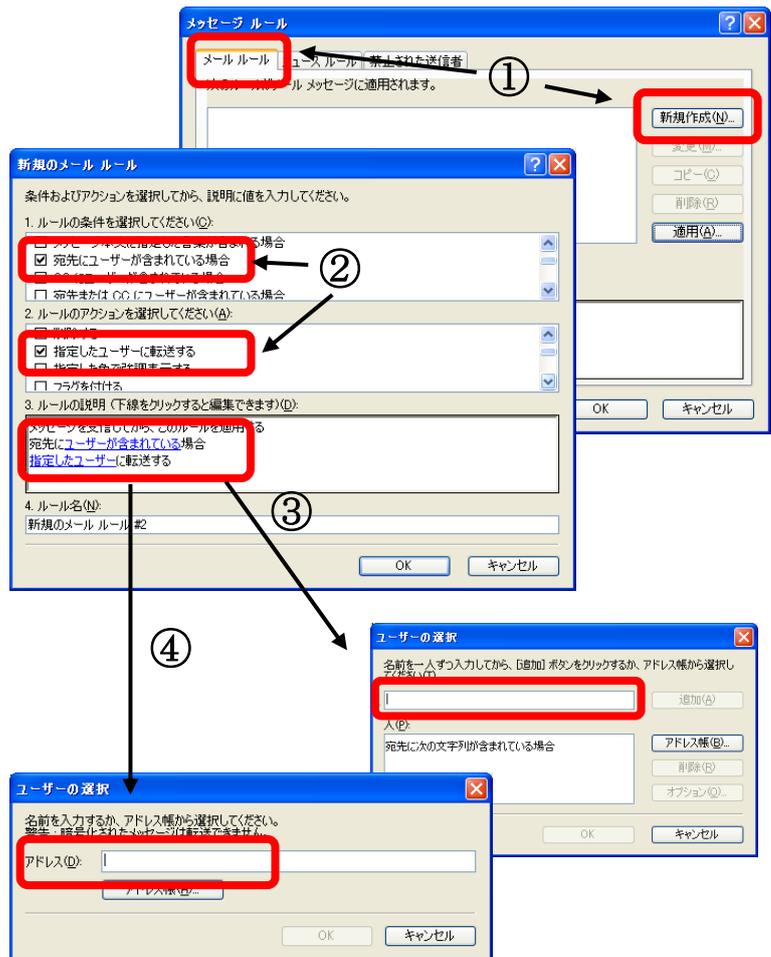
「1. ルールの条件……」で「宛先にユーザーが含まれている場合」に、「2. ルールのアクション……」で「指定したユーザーに転送する」にチェックを入れます。(図 2)

「3. ルールの説明」内の「ユーザーが含まれている」をクリックし、ユーザーの選択画面を表示させます。ここに転送元のアドレスを入力します。

(図 3)

更に「指定したユーザー」をクリックし、転送先のアドレスを入力します。

(図 4)



この機能を使ってメールを転送するには、転送元の Outlook Express は常に起動しておく必要があります。電源が落ちているパソコンや、Outlook Express が起動していない状態からは転送がかけられないので、お気をつけ下さい。

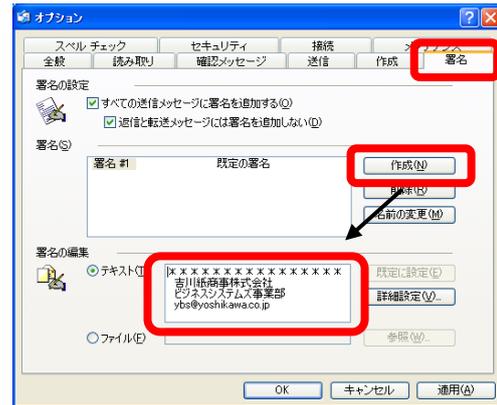
メッセージルールは条件とアクションの組み合わせにより、色々な設定をかけることができますので、この機会に是非、各種機能をご確認下さい。前回、メールが迷子にならないようにする方法をいくつかご紹介しましたが、メッセージルールを活用することもできますね。「このアドレスから送られてきたメールは、『仕事用フォルダ』に自動的に移動する」といったような設定もできます。

●ちょっと便利な機能あれこれ

□署名

メールを作成する際、予め署名を入力した状態でメッセージの作成画面を表示することができます。

[ツール→オプション→署名] の中の、**作成** ボタンをクリックすると、「署名の編集」の枠内にカーソルが表示されます。ここに入力したものが署名として、新規メール作成の際に使用されます。

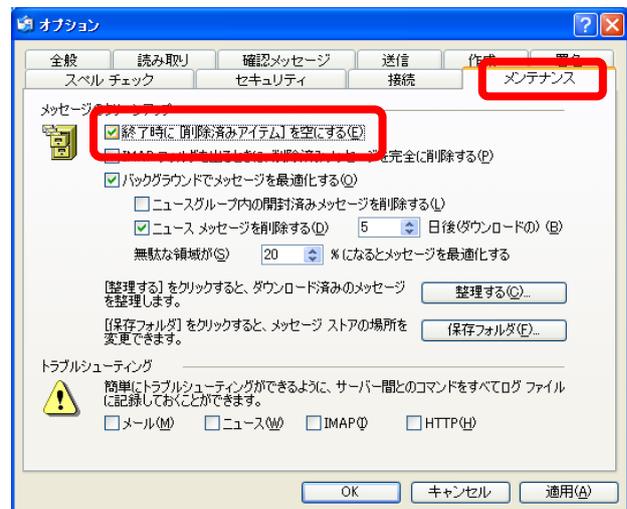


□終了時に削除済みアイテムを空にする

通常、削除済みフォルダ内のメッセージは、意図的にフォルダを空にしないと消えませんが、このオプションをオンにしておくと、**Outlook Express** 終了時に自動的に空にしてくれます。迷惑メールを受信してしまい、いつも大量に削除している……といった方は、この設定をしておく

と空にする手間が省けて便利かもしれません。

ただし、消えてしまったメッセージの復旧はできませんので、ご注意ください。
[ツール→オプション→メンテナンス] の中の、「終了時に[削除済みアイテム]を空にする」にチェックを入れます。



□開封メッセージ

「大事なメールなので、相手がちゃんと読んでくれたかどうかだけでも確認したい!」といった場合には、「開封確認メッセージ」を利用してみてはいかがでしょうか。

作成中のメールの [ツール] メニュー内「確認開封メッセージの要求」にチェックを入れて送信すると、相手はそのメールを開いた際に、図のようなメッセージが相手方に表示されます。ここで相手が「はい」をクリックすると、送信元に、メールが開封された旨のメッセージが送られます。

ただし、相手が「いいえ」をクリックしたり、開封確認メッセージを送信しない設定にしていた場合は ([ツール→オプション→開封確認] にて設定できます)、開封確認メッセージは送られてきません。

また、相手が Outlook Express 以外のメーラーを使用している場合も、開封確認メッセージは無視されます。



2回にわたってご紹介してきた Outlook Express の機能の数々、気になる機能は是非、お試し下さい!